

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2015年11月22日）

今回は総勢71人という大勢での活動となり、バス2台で運行するという点でいつもとは違う大変さがありました。人数確認を徹底し、無事活動を終えることができほっとしました。活動の内容は普段の交流活動とは異なり、野田村を貫牛さんのガイドのもと散策し、ワークショップで野田村を紹介するという目線でアウトプットするというプログラムでした。目立った渋滞はなかったものの、到着時刻が30分ほど遅れてしまい、全体を30分繰り下げ、ワークショップの時間を1時間に短縮してほぼ予定通りの時刻に正門に到着しました。帰りのバスでは、普段の交流活動にも参加したいのでまた来たい、今回野田村について知ったことを他の人に広めたいなど前向きな感想が多く、市民公開講座と復興論の授業を兼ねた活動としても有意義だったと思います。



図 道の駅「おりつめ」での集合写真

えぼし荘に到着し、すぐに3階の大ホールに集合し、講師紹介として貫牛さんからご挨拶と復興状況などについてのお話を伺いました。プロジェクターを使用して拝見した野田村の津波被害の当時映像は衝撃的な印象を与えましたが、今の状況に興味を持たせ、自分の眼で今の野田村を知ろうという趣旨にしっかりつながっていました。



えぼし荘 3階 大ホールでのオリエンテーション

プリントアウトした当時の写真をみせながら、各所の被災状況や今後の建設予定などについて説明を受けました。参加学生は熱心にメモをとり、市民の方は積極的に貫牛さんに質問していました。神社・役所方面に向かう城内地区での説明のほか、バスで漁港に移動し、被災の説明を受けました。特に漁港では被災の深刻さを理解できました。



左；城内地区、第3堤防建設予定地

右；野田湾

被災・復興状況の現場学習

全住民が避難することの難しさ、それを実現するために日頃から住民が顔を合わせ、持病や障害の有無をわかり合っている必要があることを学びました。全体として被災の傷跡や復興の状況を十分感じることができたと考えています。



左；城内地区



右；村役場

被災・復興状況の現場学習

お昼は道の駅「ぱあぶる」にバスを止めて食事しました。お弁当を持ってきた市民の方と数名が混ざって外のテーブルで食事しました。和気あいあいと昼食を楽しみました。野田村への経済的な効果としても大きい支援になったと思います。



左；城内地区



右；村役場

被災・復興状況の現場学習

午後は野田塩工房を見学した後、ワークショップ会場に移り、午後2時10分ほどからワークショップを開始しました(自己紹介から) 班の中にはまずどう人の目を引くポスターにできるか工夫した班、家族向けツアーを想定してわかりやすくまとめたマップなど好評価を得ていました。製作中別の班のまとめ方を参考にしたり、最後に他の班の評価をしたりすることによって、野田村をみる視点・まとめ方の視点において多様性を感じることができたと思います。「班の中で色々な意見がでて新たな発見もあり楽しかった」という感想

もありました。



ワークショップ終了後、速やかにバスに乗り込み、ぱあぷるで休憩してからいつも通り大野、花輪 SA を経て弘前に到着しました。正門到着時刻は午後 7 時頃となりました。忘れ物もなく無事終了できただけでなく、バス内の感想発表で初参加の市民・学生から多くの満足の声が聞けたことを嬉しく思いました。12 月の活動の告知もしましたので、来月の活動も参加者にとっても野田村支援を継続するきっかけとなりうる有意義な活動になることを祈っています。